

# キリストの光 光のキリスト

年間第17主日 7月27日

(マタイ13・44—52 または13・44—46)

天国とは、神とのつながりの中で生きること。

5歳の女の子。四十度の高熱でうなされながらも、うわごとで

「神さま、ありがとう」と何度も言っていた…と母親から聞いた。

その子は幼稚園で折り紙をした時、「お守り」を作って家に持ち帰り「ママ、このお守りは世界中の

みんなのお守りなんだよ」と言う。

発達に課題をもっている男の子が一生懸命にわたしに話してくる。「あのね…神さまね…い

つも…いっしょにいてくれるよ…。夢でね…会ったことあるよ…。自分でうなずきながら、一

つ一つ言葉をさがしながら、その想いをわたしに伝えてくれる。

園庭の隅にある畑でじっと立

## 宝さがし

って野菜を見つめている子どもが教えてくれる。「命がいつぱいあるよ。みんなつながっているよ」。他のみんなが遊んでいても、この子はよく畑のそばにいて、トマトや野菜の育つ様子をじっと見ている。

こんな話は山ほどある。

子どもたちは宝さがしがうまい。日常の自然の中に神の動きを見つける。見つけたら、まず自分の心の奥底に大切にしまい…そして…ある日、とつぜん外に出す。

今の社会の腐敗と崩壊の原因

ははつきりしている。神不在。

神は在るのに、無いものとして

いる。神とつながっているのに、

そのつながりが見えなくなっている。

在りそうに感じていても、

それを無視している。見よう  
としない…。

教育の現場で、医療の現  
場で、司法の現場で、政治の  
現場で、経済の現場で…社会



の、世界のあらゆる場で、神不  
在。

神のイメージを勝手に作り上  
げて…そんな神はいないとい  
う。人間がつくり上げた神なん  
ているはずがない。神は人が作

り出す方ではなく、わたした  
ちをつくった方。命をつくつ  
た方。それに気づくとき、神  
とのつながりは自然になる。  
最も「あたりまえ」のことと  
して分かることができる。子  
どもたちにはそれが分かっ  
ている。子どもたちは、自分  
どこから来て、どこに行くか  
を本能的に知っている。

神は感性でとらえることが  
できる。理屈ではない。人々  
は理屈で知ろうとする。感性  
に頼ると自分勝手になるので  
はないかと心配する。危険だ  
という。素晴らしい力として  
神から与えられた感性を信頼  
していいのではないか。神の  
存在は直感としてとらえるこ  
とができる。直感は一直接に

感じる」こと。

手を合わせて沈黙の中で祈る  
子どもの姿を見たことがある  
だろうか。美しい子どもの  
瞳をじっと見つめたことがあ  
るだろうか。

澄んだ瞳は本物を見つめて  
いる。その瞳の奥にある宝  
を見ると心は喜びでいつぱ  
いになる。

(山元眞||福岡教区司祭/カット||高崎紀子)

### 今週の福音

8月

28日	・月	マタイ	13	・	31	—	35
29日	・火	ヨハネ	11	・	19	—	27
またはルカ							
10	・	38	—	42			
30日	・水	マタイ	13	・	44	—	46
31日	・木	マタイ	13	・	47	—	53
8月							
1日	・金	マタイ	13	・	54	—	58
2日	・土	マタイ	14	・	1	—	12